



# 千年村チェックリスト Ver.2.3

千年村チェックリストは、環境・地域経営・交通・集落構造の観点から、自ら住む地域についての自己評価を行うことができます。それぞれの項目や、最終ページの自己評価方法までの一連のフローは、2012年より正式に活動した千年村プロジェクトの実地調査による知見を反映したものです。今後、このチェックリストを利用した千年村認証活動も行う予定です。

※チェックリスト記入マニュアルや、過去の事例を参考に記入して下さい。

※記入の際は、個人だけでなく複数人で相談することを推奨します。

※提出の際には必ず自治会長など集落を取り仕切る方の確認を取ってください。

※固有名詞などはできるだけ具体的に記入してください。

※出典は必ず明記して下さい。

※用途以外での千年村チェックリストの無断使用・無断転載は禁止します。

2017.03.31 千年村プロジェクト

— — — — — 以下、記入欄 — — — — —

## ○記入者情報

代表者（自治会長など）

ふりがな  
氏名：\_\_\_\_\_

肩書：\_\_\_\_\_

連絡先住所：\_\_\_\_\_

連絡先：\_\_\_\_\_

千年村プロジェクト

関東活動拠点

早稲田大学

代表記入者 ふりがな 氏名：たかの たいき 高野 泰幹 所属：中谷礼仁研究室 連絡先：03-5386-2496

記入者 2 ふりがな 氏名：じんば ようへい 神保 洋平 所属：同上

記入者 3 ふりがな 氏名： 所属：

記入者 4 ふりがな 氏名： 所属：

## 0 集落の概要

集落の名称	現在の地名（大字） かな かみつ・しもつ（おがわじま） 上津・下津（小川島）	歴史的で名（参照した古文書の名称とその成立年代） かな とねぐんぐるみごう 利根郡吳桃郷 『和名類聚抄』
所在地	大字まで書いて下さい。 かな ぐんまけんとねぐん かみつ・しもつ（おがわじま） 群馬県利根郡みなかみ町上津・下津（小川島）	
面積	(2010年度) 1.259 km <sup>2</sup>	人口 208人
合併の歴史	年月日、地域の名称の変化など、分かる範囲で書いて下さい。 1889年4月1日 上津村・下津村が、町村制施行により月夜野村・小川村・石倉村と合併し桃野村が成立する。 1955年4月1日 桃野村が、古馬牧村と合併し月夜野町が発足する。 2005年10月1日 月夜野町が、水上町、新治村と合併しみなかみ町となる。 〈「Wikipedia」を参照〉	(2010年度) 世帯数 64世帯
地域の記録	〇〇村史、〇〇市史など地域の記録はあるか（対象大字より広範囲のものでも可）。その発行年・著者。 小川島郷土研究会『小川島の生ひ立』(1955)、月夜野町教育委員会『桃野村誌』(1972) 月夜野町史編さん委員会編『月夜野町史』(1986) 福田アジオ編『小川島の民俗：群馬県利根郡月夜野町下津小川島』(2004)	



図 1 利根郡吳桃郷の比定範囲（「Google Map」に加筆）

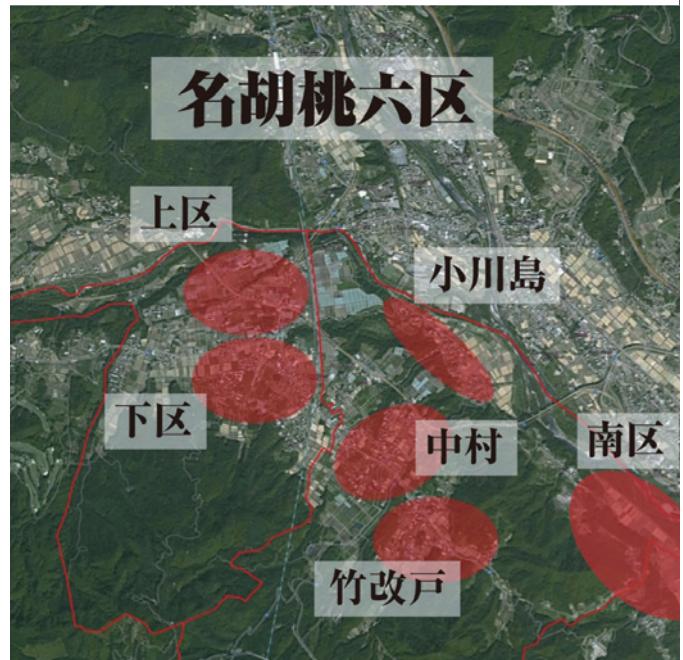


図 2 名胡桃六区（「Google Map」に加筆）

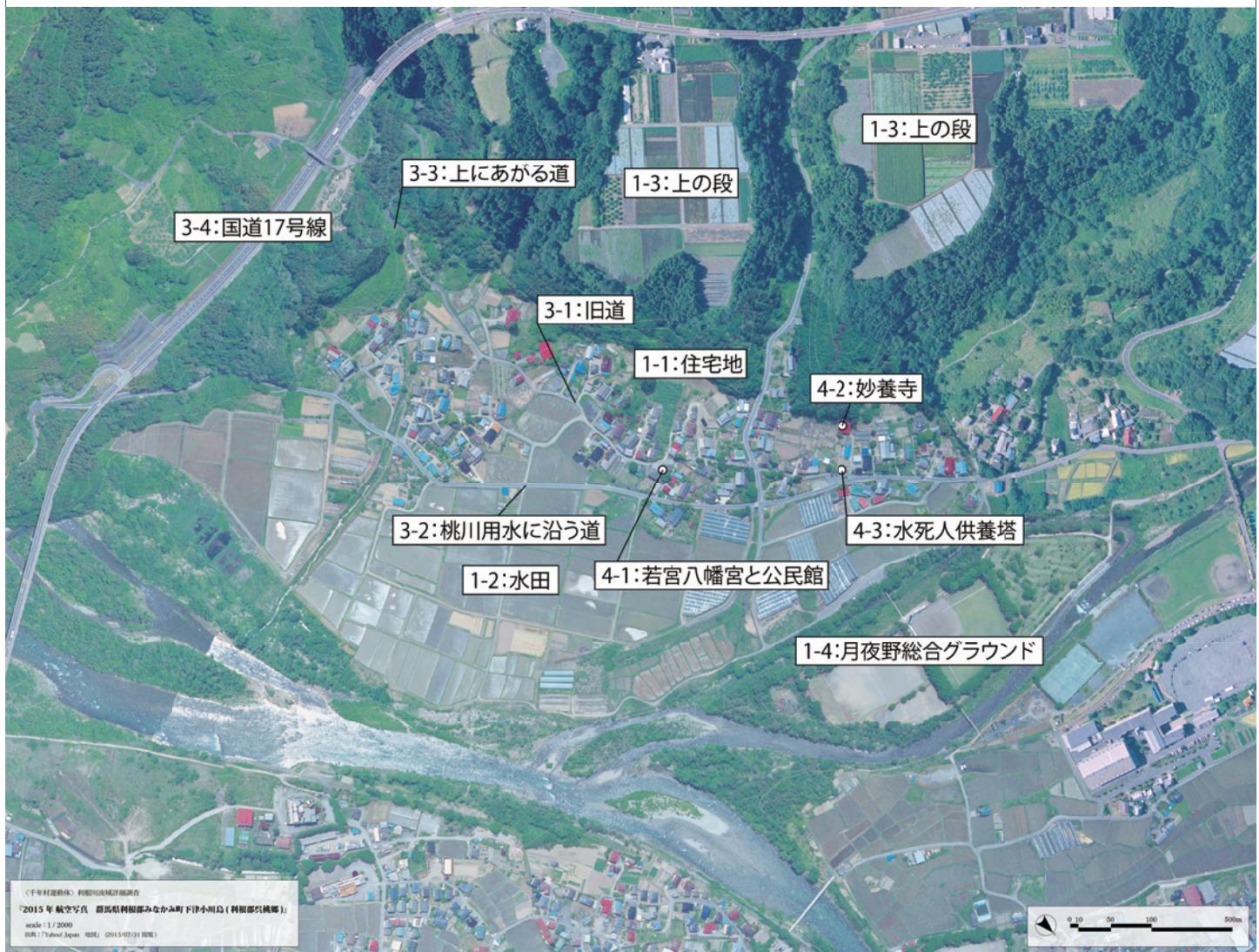


図 3 2015 年航空写真\_\_小川島（「Yahoo! 地図」に加筆）

# | 環境 －自然とのつきあい方－

番号	ポイント	
①	集落のかたち・立地 古いところ	<p>例) 古い集落はどんな地形に立地しているか。どの水系に属しているか。また、街道やみなとの関係はどうか。旧河道はどこを通っているか。</p> <p>居住地は河岸段丘上に立地している。[図3の1-1] 東西に伸びた集落配置となっていて、北東へと流れる沢と集落の中心を通る桃川用水の隙間を埋めるように家が配されている。</p>
②	生産地(農地や工場など) の立地	<p>例) 農地、工場、商業地、漁業、林業などはどこに立地しているか。圃場整備の範囲はどこか。工場、商業地がいつできたか。耕作放棄地や空地があるか。旧河道はどう利用されているか。</p> <p>赤谷川の河岸段丘面は水田として利用されている。[図3の1-2] 「上の段」と言われる集落南側の斜面上にも耕地を所有している。そこは畑作地として利用されている。[図3の1-3]</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.26 を参照〉</p>
③	主要産業・特産物	<p>例) 現在の主要産業は何か。働き先はどこか(集落内外)。かつての主要産業は何か。特産物はあるか。</p> <p>主要産業は農業。米の生産量は小川島内の消費量を賄っており、一部外へ出荷している。</p> <p>かつては養蚕とたばこ産業が盛んであったが今はない。最近では果樹(さくらんぼ・りんご・ぶどう)や枝豆・こんにゃくの生産が行われている。</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.26 とヒアリングを参照〉</p>
④	水源と水の引き方	<p>例) 農業用水の水源は何か。生活用水の水源は何か。井戸が残っているか。地域内の水路はどこを通っているか。</p> <p>農業用水は沢からは取水せず、中央を流れている桃川用水(1650)から取水する。集落の中を6つの沢(室戸沢、エモン沢、湯舟沢、後沢、中後沢、原沢)が流れしており、野菜を洗うとき等に利用されている。</p> <p>生活用水はかつて井戸からを取水していた。</p> <p>〈『桃野町誌』(1972) p.579 とヒアリングを参照〉</p>
⑤	近年の土地開発について	<p>例) 昭和40～60年代、平成、最近5年程度に行われた開発はそれぞれどこか。開発前の土地利用は何か。開発によって商業、交通などどんな変化が起きたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤谷ダム(昭和32年)：ダムのおかげで洪水はほとんどなくなった。</li> <li>・月夜野総合グラウンド(昭和47・48年)：畑が転用されたグラウンドでみなかみ町民体育祭が行われる。[図3の1-4]</li> <li>・圃場整備(昭和62年)：赤谷川沿いの水田が整備される。[図3の1-2]</li> </ul> <p>〈ヒアリングを参照〉</p>
⑥	過去の災害とその対策	<p>例) 災害危険区域はどこか(ハザードマップなど)。過去、どのような災害があって、どこに逃げたか、その協力体制。どのような災害を心配しているか。集落内の安全な場所と危険な場所。ハザードマップをみると、居住地の北側の生産地は浸水想定区となっている。[図4]また、居住地の南側は土砂災害警戒区域となっている。[図5]それらを踏まえると居住地は安全区域であるといえる。水害による農作物への影響はあるが人的被害はほとんどない。</p> <p>〈ヒアリングを参照〉</p>
⑦	その他	<p>自由記述・図示など。</p>  <p>図4 浸水想定区域</p>  <p>図5 土砂災害警戒区域</p> <p>「みなかみ町ハザードマップ」(<a href="http://www.town.minakami.gunma.jp/politics/10bousai/2016-1012-1540-12.html">http://www.town.minakami.gunma.jp/politics/10bousai/2016-1012-1540-12.html</a> 2017/3/31閲覧)</p>

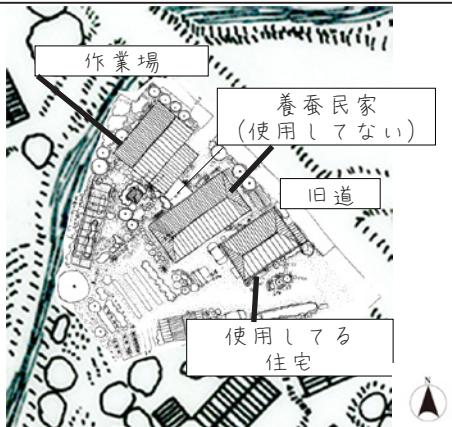
## II 地域経営 －集落を支える仕組み－

番号	ポイント	
①	各種組織	<p>例) 行政区、町内、班といった地域的な組織の構成および目的別の組織（消防団、氏子、講など）にはどのようなものがあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。</p> <p>数年で交代する役員の制度がある。「辻三役」の辻長、代理者、土木係は村の中心メンバーであり、他にも様々な役職がある。</p> <p>年中行事に加えて、冠婚葬祭の手伝いも「五人組」や「班」のまとまりで行われる。</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.12 を参照〉</p>
②	地域内での情報伝達、連絡の方法	<p>例) 地域内での情報の共有や連絡はどのように行われているか。(回覧板・ウェブサイト (URL)・公民館便りなど)</p> <p>集落の北側から1から6の班が編成されていて、回覧板や集落の広報を配る単位にもなっている。各班に班長があり、辻からの連絡は辻長から班長を通して伝えられる。</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.12 を参照〉</p>
③	山林、里山また湖などの管理主体	<p>例) 地域に共有性のある土地利用（入会地など）が行われているところはあるか。その利用主体の組織はどのようにになっているか。</p> <p>共有地は分散して存在していて、以下の2つに分類される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下津共有：下津の森林組合によって管理される。</li> <li>・小川島共有：辻の役職者によって管理される。</li> </ul> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.11 を参照〉</p>
④	水の管理主体	<p>例) 水門、水路などの水利用施設の維持管理を行う組合、組織はあるか。農業用水以外の水利用に関わる組織はあるか。</p> <p>2004年時点では、用水の管理は土木係が行っていた。現在でも土木係が桃川用水や沢などの水路を清掃している。</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.14 とヒアリングを参照〉</p>
⑤	地域祭礼・年中行事	<p>例) 祭礼についてその概要や成立時期、祭礼と地域住民の関わりはどうなっているか。また地区対抗運動会など地域が参加する年中行事はあるか。</p> <p>春祭り・風祭・秋祭り（祭典とヤッサ祭り）がある。[写真5、6、7] 目的は五穀豊穣、無病息災、水害除け。特にヤッサ祭りは400年の伝統をもつ裸祭りで、男たちがふんどし姿で数珠つなぎになり駆け回り、鞘宮に登る行為を7回繰り返し、鈴の緒をもぎ取る。</p> <p>〈『小川島の民俗』(2004) p.82 を参照〉</p>
⑥	地域の歴史・物語の伝承	<p>例) 地域の歴史や物語などを伝える活動、組織（郷土史会、歴史遺構の広報活動など）はあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。出版物には出版年・著者などを記入してください。</p> <p>『小川島の生ひ立』(1955)を出版している小川島郷土研究会があった。現在は活動していないと思われる。</p>
⑦	口伝・通称の地名	<p>例) 住所表示や地図には存在しないが地域で共有されている場所（山、集落、田、川など）の呼称、通称地名はあるか。（フリガナをつける）</p> <p>近世初期までは名胡桃村だったが近世前期に上津村、下津村に分割された。そのうち下津村は小川島組（おがわじまぐみ）・中村組（なかむらぐみ）・竹改戸組（たけかいどぐみ）、上津村は上組・下組が属する。これが名胡桃五ヶ組である。昭和27年に南辻が成立し、現在では、名胡桃は6つの辻からなる。</p> <p>〈『小川島の民俗』p.5 を参照〉</p>
⑧	その他	自由記述・図示など。

### III 交通 一人とモノの往来一

番号	ポイント	
①	昔からの道	<p>例) 古くからある道で名称、種別、用途、起源などがわかるものはあるか。また、どこにつながっていたか、主に何を運んでいたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧道（年代不詳）：かつては、桃川用水の北側の道が主な道であった。[図3の3-1]</li> <li>・桃川用水に沿う道（昭和20年代）：戦時に軍の意向で拡幅された軍道である。その後、昭和62年に圃場整備によって拡幅された。[図3の3-2]</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈ヒアリングを参照〉</p>
②	現在の主要な道路	<p>例) 現在の生活の中で主に使われている道はどれか。その名称、完成時期などとそれとの利用方法（○○へ行く道、集落内移動、さんぽなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上にあがる道（昭和33年）：元々は人馬が通れるほどの獣道だったが、昭和50年代に国道17号線の開通にあわせて整備される。[図3の3-3]</li> <li>・国道17号線（昭和50年代）：利根川を渡る道である。[図3の3-4]</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈ヒアリングを参照〉</p>
③	建設予定の道路の有無	<p>例) 地域に影響がありそうな道路の新規建設計画、拡幅などの改良計画はあるか。 その名称、完成予定期、目的、また集落の存続に与える影響など。</p> <p>特になし。</p>
④	水運の有無と利用法	<p>例) かつて使われていた水上交通（川、堀、河岸、港など）はあるか。それらは、どのように使われていたか。今はどうか。</p> <p>かつては、対岸に行くために渡し船が用いられていた。もしくは頻繁に流されるほどの簡易な橋で対岸へ渡っていた。現在は頑丈な橋がかかり、船による交通は必要ではなくなった。</p> <p style="text-align: right;">〈ヒアリングを参照〉</p>
⑤	鉄道の有無、 その経緯と現状	<p>例) 地域に関わりのある鉄道はあるか。廃線になったものも含めて、その路線、駅、主な用途、時代的変化などはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後閑駅：対岸にあり、1926年（大正15年）に開業。</li> <li>・上毛高原駅：南の高台にあり、1982年（昭和57年）に開業。</li> </ul> <p style="text-align: right;">『桃野町誌』(1972) p.871,880 を参照</p>
⑥	その他	自由記述・図示など。

## IV 集落構造 －集落の骨格－

番号	ポイント	
①	集落の核	<p>例) 古いと言われている場所、集落の起源とされている場所はどこか。皆が中心だと思う地区、寺社、本家などは、どれでどこにあるか。</p> <p>公的な行事の舞台となるのは、若宮八幡宮（1053年）と公民館である。[写真1] これらは集落の中央部に位置する。[図3の4-1]</p> <p>公民館はかつて歌舞伎が行われた「小川島の廻り舞台」を改造したもので県指定文化財に登録されている。</p> <p>〈『小川島の民俗』（2004）p.11を参照〉</p>
②	墓地の場所と現状	<p>例) かつての埋葬地はどこか。墓地はどこか。その成立時期、管理方法（一族的管理、宗教施設による管理など）に特徴があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>妙養寺：キリスト教の墓地もあり、かつて隠れキリスト教の伝統があった。[図3の4-2]</li> <li>水死人供養塔：洪水で水死した人は村民でなくとも供養している。[図3の4-3]</li> </ul> <p>〈ヒアリングを参照〉</p>
③	集落の維持について	<p>例) 道、石積み、建物などの建設に携わる専門職はいるか。在来工務店はあるか。地場的な素材利用はしているか。</p> <p>現在は地元大工が3人いるが、代々の地場大工ではない。かつては他の地域から大工が来ていた可能性がある。</p> <p>〈ヒアリングを参照〉</p>
④	文化・自然遺産の有無	<p>例) 遺跡や旧跡、古民家、古さを示す自然物（御神木など）、古くからある土木構造物はあるか。その年代はいつか。</p> <p>空積みの石積みがみられる。[図6]</p>
⑤	集落の型	<p>例) 集落のかたち。地形や水路との関係はどんなふうか。集落内の民家、敷地に共通点はあるか。○○造り等の名称はあるか。（可能であれば図示）</p> <p>各敷地が旧道[図3の3-1]に接続されている[図7]。</p> <p>兜造り・出桁造りの養蚕民家や土蔵のある家が多い。[写真3, 4] 土蔵の一階には米櫃、味噌蔵や農具、二階には冠婚葬祭道具や家宝が収納されている。</p>
⑥	暮らしの工夫 村での発明	<p>例) 集落における面白いモノの利用（独特的な軒下の形、水場の使い方など）、そのための小さな発明。修繕のしかたなど。</p> <p>桃川用水沿いに水際に降りられる洗い場がいくつかあり、それを利用し野菜などを洗う。[写真2]</p>
⑦	その他	<p>自由記述・図示など。</p>  <p>図6 空積みの石垣</p>  <p>図7 小川島の民家配置図 (NO SCALE) ※千年村プロジェクト作成</p>

# 自己評価

これまでのチェックリストを振り返り、環境・集落構造・地域経営・交通の各要素について以下の4段階評価を行ってください。

そして、その理由を記述して下さい。また、自己評価をもとに、集落についての総合評価を行って下さい。

○自己評価：A・・・優れている B・・・やや優れている W・・・弱い

要素	自己評価	理由
環境	A	<p>○災害リスクを読み込んだ土地の使い方 居住地は河岸段丘上に立地している。その北部は浸水が想定される地域であり、南部は土砂災害危険区域となっている。東西に伸びた集落配置となっていて、北東へと流れる沢と集落の中心を通る桃川用水が巧みに利用され生産が行われている。このように小川島は災害危険区域と水脈を丁寧に読み込んだ土地利用をしている。</p>
地域経営	A	<p>○災害意識を共有する年中行事 春祭り・風祭・秋祭り（祭典とヤッサ祭り）は、集落の一年を祈念する重要な年中行事である。なかでも秋祭りは「五穀豊穫」「水害除け」を祈念する行事で、400年前より災害への危惧があったことが分かる。 住民は役員を経て集落の一年の動きを身につける。その交代を繰り返すことで年中行事が次の世代へと継承されていく。こうした集落のサイクルが結果として災害の意識共有を担っていると考えられる。</p>
交通	W	<p>○交通に依存しない場所 交通による集落の発展が格段みられなかった。同時に、交通による都市的開発がないので、集落の核を温存されている。これは「島」としての性格（交通に依存せずに集落で自律した営み）を保持していることを意味している。</p>
集落構造	B	<p>○旧道を軸にした骨格 各敷地は主に旧道と接続され、兜造りや土蔵などの持続的価値がある建造物が確認できた。なかでも中心部に位置する若宮八幡宮や県指定文化財に登録されている公民館は集落の行事を担う重要な建造物である。 以上のように小川島は持続的価値がある建造物、特に若宮八幡宮、公民館が旧道を軸に展開された骨格を有している。</p>

## 総合評価

自己評価をもとに、この集落がなぜ千年村であるか、どのような点で千年村として優れているのかなど、自由に記入して下さい。  
また、それらが千年村認証基準のどの項目を満たしているか記入して下さい。

小川島は地名の通り、災害危険区域や豊富な水脈を読み込んだ「島」のような土地利用がなされている。また数年で交代する役員制度によって村の年中行事が継承されていく。こうした村のサイクルが結果として災害への意識共有を担っていると思われる。

以上から、島のような「環境」と年中行事を通して災害認識を共有する「地域経営」が小川島の持続要因であると考えられる。これより千年村認証基準のⅠとⅡに秀でた千年村であると言える。

## キャッチフレーズ

集落のキャッチフレーズつくりに挑戦してみましょう。これまでの記述を踏まえて、この集落の持続要因を一言で表してみて下さい。

「川と沢に鍛えられた心豊かな小川島」

## 集落の写真など



写真 1 若宮八幡宮 (左) と公民館 (右)



写真 2 桃川用水沿いの野菜洗い場



写真 3 鳩造りの民家



写真 4 土蔵



写真 5 ヤッサ祭り\_鞘宮に登る様子



写真 6 ヤッサ祭り\_数珠つなぎに連なる様子



写真 7 秋祭り\_祭典

福島加津也

(福島加津也 + 富永祥子建築設計事務所 /

受付日 :

認証日 : 2017/3/31 (金) 認証代表者 : 東京都市大学／千年村プロジェクト)